

第2回基本構想シンポジウム概要

日時 2003年12月3日午後7時から9時
会場 勤労福祉会館 地下 多目的ホール
出席者 93人(ワークショップ報告者を含む)
内容

1. 開会

2. あいさつ(基本構想担当課長)

「ことし3月に約140名で発足した区民ワークショップは、8か月にわたって月2回ほど分野別の会合を続けてきた。その中身について中間報告を行い、この先の検討のために、みなさんから意見をいただきたい。ワークショップは、提案づくりに向けて熱心な議論を重ねており、この1かつきは臨時会合も頻繁に行われている」

3. 本日の予定(略)およびワークショップの趣旨説明(司会)

「ワークショップは、参加者がそれぞれの立場を認めあいながら意見を言い、つくりあげる場。区民ワークショップは、基本構想に盛り込むべき内容について来年2月までに提案をまとめて基本構想審議会へ提出するために話し合いを続けている」

4. 第1部 各分野からの発表(パワーポイントを使用して15分ずつ発表:内容略)

- 第1分野
- 第2分野
- 第3分野
- 第4分野

5. 第2部 意見交換

(区民の皆さんからの意見・提案及び区民ワークショップの各分野代表者による回答)

参加者が挙手により意見を述べ、必要に応じてワークショップ代表者から回答する形で進行した。

○ 区民の皆さんからの意見・提案
区民ワークショップ各分野代表者による回答

みなさん一生懸命やっておられる。最初の発表では中野の現状が紹介されていた。ああいう分析があって、10年後にどうするが発表されるとわかりやすい。ほかの分野では、現状をどう打開するのかがわかりにくかった。それから、第1分野は問題解決には「協調が大切」とおっしゃったが、協調だけではなく喧嘩をすることもあるのではないか。最後の第4分野の地域ガバメントを区内に4~6程度設置するという事は、あまり賛成できない。

現状分析について

第2分野 今回の発表には、資料には出していないが、現状分析は、検討の中で行っているのが最終的には発表していきたい。

第3分野 マトリックス表の中で意見を出し合い、出てきている。今後それについて精査することも課題になっている。

第4分野 限られた時間の中の発表だったので、あえて10年後の中野の提案を行った。現状分析は行っている。最終報告には載せていきたい。

協調について

第1分野 確かに協調という言葉を使った。全体を通して4つの理想像を掲げたが、言い方を換えれば喧嘩ということにもなるのではないか。まちのことは方向がいろいろ。行政の及ばない範囲も含んでいる。

地域ガバメントの分散について

第4分野 地域ガバメントを4つ設置するのは、いかがなものかという意見であるが、身近なところで組織を作って既に成功している自治体もある。そのあたりを参考にして議論を行ってきた。最終的にさらに検討を深めていきたい。

- 基本的に各分野の発表は、自立した市民を想定した発表になっている。少数者に対する分析をどの程度行ったのかが見えてこない。行政の役割について極めて甘さを感じる。市民として考える上で非常に大切なことだと思う。特に第3分野の行財政運営のところは、ほとんど監視する行政にしようとしているのか。こういう責任だけを問うことは、理解できない。

例えば、エレベーターの件についても、まだまだ遅れている段階なのに、行政責任をこういう形で、市民の側から提案するということがいかがなものか。

第3分野 ご意見は、もっともであり、同感できる部分もある。今回は第3分野で話し合ったのは、自立した市民ということであった。市民がどういう活動をして、それに伴い行政がどのようにバックアップをしていくのかということを中心に話し合った。

生活保護、障害者などの問題については、ほとんど触れていないが、今回は、私たちが中心にやっていくという活動をどのようにしていくのかということと提案を行った。生活保護の問題や公園で生活をしている方などの問題もあるが、そこまで全部広げると守備範囲が非常にひろくなってしまう。いただいた意見は、きちっと反映させていきたいと思っている。

- 第1分野の発表の中野区の人口の現状分析によると東京都の平均より高齢者の比率が高くなっている。このことから分析すると、高齢者の比率が高いということは、中野区は住みやすいということになるのではないか。

しかし、各分野の発表は、なんとか住み続けたい中野にしたいということを強調しすぎているがために、現状の中野区のいい点や高齢者がなどこのように多いのかという分析を見逃しているのではないか。

子どもが少なく20代、30代が多いということは、独身者が多いということ。フリーターとかアルバイトが多い。所帯持ちが少ないということの意味している。どの分野も、10年以内に引っ越すこのような層にもっと目を向ける必要があるのではないか。

昔の中野は、下宿街であり、若い人達を温かく迎えて、成長させ、温かくその人達を送り出す役目を果たしていた。昔の中野の帰りたいということは、若い人にとって思いやりがあった中野だと思う。そこにもっと目を向けるべきであると思う。

第1分野 中野駅の北口は、若い人が集まる。逆に昔からある商店街などは、必ずしも若い方の目が向いていないのではないか。朝から晩まで働いて中野には、寝に帰るだけの区民の区民がかなりいる。そのような層に目を向けつつ、なおかつその人達が新宿などで使ってもらお金を中野区で使ってもらおうというようなことも考えている。そのような意味で第1分野では、「域内循環」という言葉を使った。

人口密度が日本一であるということは、利便性があるということにもつながる。それを活かしながら今後の10年を作っていく中野であればと思う。

第2分野 若い人達が住みやすい点についての視点が少し欠けていたかもしれない。今後の検討の視点の中に取り入れていきたい。

また、第2分野の提案では、若者文化を育てるという言葉で提案している。中野のサブカルチャーをどうにかしてあたたかく見守っていくということとできないかということを検討している。「若者文化を見守ることができる」ということを中野の10年後の姿にうまく盛り込んでいきたいと考えている。

第3分野 第3分野としてもそのような議論をしている。高齢者の方が住みやすいまちを実現したいと思いと、まちの中で若い人達の活躍の場をどう作るというのは、私たちの分野でも課題になっている。地域通貨など様々なことを考えて具体的に提案していきたい。

第4分野 若い人達をもっと巻き込む手立てはないかということで、自治に対して身近になる必要がある。その答えが第4分野の提案した地域ガバメントである。

- 各分野の発表の中で自治が大切であるとうことは、私も同感である。しかし、中野区は、23区の中で一番財政状況が逼迫している。中野区は、いままで住民自治、参加を大きく掲げてきたが、限界がきているのではないかと思う。

例えば、中野の場合は、都市計画道路がなかなか出来ない。二律背反する問題については、果敢な対処ができないということは、今の住民自治の限界であると思う。

第4分野の方は、小さな区役所で住民自治でという提案であると思うが、今の住民自治に限界があることについてどう思うか話を伺いたい。

第4分野 小さな区役所を目指すという本質的な話し合いの過程で、区役所が肥大化すればするほど、機能不全を起すのではないかということになった。検討過程の中では、職員の能力をもっと発揮できるような形、もしくは身近に感じる形にするには、サービスを分割していく方がいいのではないかということになった。その中で機能をより活発にしていくには、地域ごとにある特性をより重点的にとれる形がいいということになった。

私は、第1分野にも参加しているが、第1分野の検討では、道路行政の中で意見が2つに分かれた。狭隘道路に関しては、防災の面から広い方がいいという意見と、区画整理でまっすぐ四角になってしまうと味気ないという情緒の問題と極端に意見が分かれた。現状ではこのような状況である。

- 民間出身の中学校の校長先生の例など、杉並区のホームページを見ていると様々な先進事例に取り組んでいる。他の先進自治体の事例をどのように提案に盛り込んでいくのか。第2分野に伺いたい。

第2分野 今後の第2分野検討の中では、他区の先進事例などの情報を取り、検討の材料にしていきたい。

- 第2分野のチャートの中の右側の社会教育の柱であるが、「社会に貢献できる豊かな人材育成を目指す。健康を維持し、生きがいを持って社会参加できる環境づくりを」という事を掲げている。もっともなことであるが、社会教育とは、少し違うのではないかと思う。生涯学習というという言葉が、現在、社会教育にとって変わっているが、教育の機能としては、このようにとらえると違うのではないか。その点はどのように考えているのか。

第2分野 社会教育については、未だ十分検証されていない分野である。すべての世代層を対象とした社会教育であるということは第2分野で議論してきたが、ご指摘の点も踏まえてさらに検討を深めていきたい。

- 人口の密集地は、悪いというようなイメージを受けたが、それは違うのではないか。中野区の面積に30万の人口がいて、それが悪いのならば、その30万人を動かせということになる。そこに住む人達の環境がどうなるかという問題であると思う。

- 地域ガバメントについて、地域に分散して設置するということが、現在の地域センターとの関係はどうなるのか。

第4分野 地域センターとの関係についてだが、全く新しい組織を考えている。地域ガバメントのリーダーも地域住民の中から選ばれる。今までの地域センターとは全く違うものと考えている。

- 第4分野の地域ガバメントと小さな区役所と役割図があった。その小さな区役所の中にある地

域通貨のイメージを教えてください。

また、高い専門性が要求されるものや機関だとかそのようなところは、地域ガバメント行うべきなのか、あるいは他のところが行うのか伺いたい。小さな区役所の役割はどのようなことか。

第4分野 ご質問のところは、これから検討するところでもある。地域ガバメントは運営というところで関わってくるということが必要なのではないかと思う。小さな区役所では、大きい方針とか中長期的な計画をたてることを想定している。

6. 区長あいさつ

遅くまで熱心に議論いただいた。みなさんが15分で語り足りない、議論の蓄積が感じ取れた。これからまだまだ議論が続き、整理されていくことがほとんどだと思う。こういう形で議論が進んでいることは素晴らしいし、評価できる。これから4つの分野をどう結びつけて統合化するか、個々の分野でも共通の理念に横串を刺していく作業があると思う。これから一層みなさんで議論を深めていただきたい。